

首都圏発

12・1月は
住まい

最期は格安ケアハウス



自室でくつろぐ入井二郎さん(右)。「年が近く話が合う友人もいて楽しい」長野県小諸市

住み慣れた首都圏を離れ、地方で終の棲家を探したい。高齢者の住まい相談に乗るNPO法人にそんな依頼が増えている。なかでも人気が高いのが、年金程度の費用で暮らせる3食付きのケアハウスだ。入居した人の思いと合わせ、選ぶポイントなどを専門家に聞いた。

3食付き地方が人気

長野県小諸市の「ケアハウスのぞみ」は浅間山の見える住宅街にある。「土地動があるから懐かしい」と入居者の入井二郎さん(88)。以前は東京都千代田区で一人暮らし。都内で施設入居を考えたが、待機者が数十人と聞いた。埼玉、茨城と周辺を探すなかに小諸市の名を見つけ、2009年に入居した。

亡き妻の実家があった思い出の地だ。学生時代、週末などに東京から通って2人で過ごした。げた履きで市内を散策した若い日々の記憶がよみがえる。目が不自由で車いすのため、要介護4。「生活上の苦勞や制約がない。いいところに入れました」
瀬戸内海が見渡せる高松

ケアハウス

軽費老人ホームの一種。自立生活に不安はあるが、原則として身の回りのことができる人向け、要介

護の人向け、両方の混合型がある。自立型の月額目安は食費を入れて7万〜13万円程度。介護型はこれに介護料が上乗せされる。タスミわに暮らす山本ウタさん(88)は「すっかりここが我が家」と笑う。東京都新宿区で20年以上暮らしたが、母をみるために静岡に。母、夫、次男を亡くし、1人で生きようと09年に入居した。「元氣なのになげ入るの」という友人もいたが、「清潔だし、気持ちのいい人ばかり。入ってよかった」。仲間とタクシに相乗りし、駅前にステーキを食べに行くなど満喫している。

施設の違う見極め

神奈川県藤沢市のNPO法人「シニア住まい塾」は、老後の住まい探しの相談にのっている。相談員で「『年金』だけで暮らせる終の棲家78軒」(主婦と生活社)などの著書を持つ栗原道子さんは「最近首都圏の人でも地方の施設や住まいを希望する人が増えた」と話す。
なかでもケアハウスは「完全個室で3食付き。なのに安くておすすすめ」と話す。
その背景には、需要が多く、介護報酬で経営が安定する特別養護老人ホームを優先する実態があるという。「行政も法人も、供給量を増やす方策をもっと積極的に考えるべきだ」と指摘する。(斎藤博美)